

立命館大学

国際平和ミュージアムだより

KYOTO MUSEUM FOR WORLD PEACE, RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Vol.31-1 (通巻90号) 2023.6.29発行



Contents

- | | |
|-------|----------------------|
| 01 | 理念・総括 |
| 02 | 新館長のご挨拶 |
| 03~06 | 第2期リニューアルにむけて |
| 07 | 展示報告 |
| 08~09 | 国際平和ミュージアム主催イベント開催報告 |
| 10~15 | 平和教育研究センター活動報告 |
| 15 | 教育普及活動報告 |
| 16 | 博物館資料 |
| 17~18 | 2022年度活動記録 |
| 19 | 遊心雑記 |

理 念

人類は20世紀において、2度におよぶ世界大戦を経験し、幾千万もの命を失いました。しかし、地域紛争は今なお絶えることなく、多くの人びとが生存の危機にさらされています。また、飢えや貧困、人権抑圧や環境破壊など人類が共同して解決すべき問題も、多様な形で浮上ってきています。わたしたちは、紛争の原因を取りのぞき、人間の可能性が豊かに花開く平和な社会の実現に向けて努力することが求められています。

立命館大学国際平和ミュージアムは、平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体者をはぐくむために設立されました。

総 括

2022年度の情勢を振り返るとき、2022年2月24日のロシアのウクライナ侵攻は、第2期リニューアル事業を進めている立命館大学国際平和ミュージアムにとって、非常に重い事態であると言わざるをえません。紙幅の都合もあり、ロシアのウクライナ侵攻の背景や経過を詳細に示すことは出来ません。ただ、平和創造を活動の重点に置く国際平和ミュージアムにとって、ロシアのウクライナ侵攻が、2022北京冬季オリンピック閉幕直後、国連の休戦決議期間中になされたことは覚えておく必要があります。ロシアのウクライナ侵攻に対して、「ロシアによるウクライナ侵攻を糾弾し、ウクライナ市民との連帯を表明します」(2022年3月2日)という声明を発出しました。また、国際平和ミュージアムは平和教育研究センターと協力し、2022年5月20日に「国際政治の視点から見るウクライナをめぐる問題についてのWEB討論会」、2022年6月11日に「No War ウクライナに平和な日常を！」といったウクライナ関連の文化企画、市民が積極的に参加した活動を展開しました。

また、2022年5月15日、沖縄の本土復帰50周年を迎えました。沖縄には現在も在日アメリカ軍専用施設の7割が集中し、経済面でも県民所得が全国の75%にとどまり、復帰当時に人々が期待した「本土並み」の実現には多くの課題が残されています。

2022年12月10日には、劇俳優の谷ノ上朋美氏を本学へ迎え、沖縄戦の惨禍を語り伝える一人芝居「ゆんたくしましょね」を上演頂きました。留学生を含む本学学生や多くの市民の方々に当時の情景を思い描いて頂く機会となりました。歴史に残る重大事案や、また歴史の大きな節目になる事案が生じた年度でありました。

その様な環境下、当ミュージアムでは第2期ミュージアムリニューアル事業を精力的に進めました。過年

度に確定した「基本設計」、「実施設計」を基に、アカデミア21地階の「常設展示場」での展示内容について学内外研究者・学芸員・展示制作会社スタッフとの微細にわたる協議が年間を通じて実施されました。年度前半は、壁面年表の造作と関わり、1840年のアヘン戦争から2020年のマンマーカーデターに至る歴史を3つの区分に分け、それぞれの時代にどのような事象を選び、来館者へ伝えて行くかを協議しました。個々の解説文書やそれに紐づく画像・映像資料を年表上に如何に配置すれば、歴史の流れを的確に伝えることが出来るか、また、紛争に留まらない、人々の平和な営みを脅かす様々な事象を整理して伝えることが出来るか、そして、本学に在籍する学生・生徒・児童を始め、未来の平和創造を担う若者が思考を深め、そして未来に使命と希望を抱く一助になりうるかを、様々な視点から考察しました。続けて、年度後半、常設展示場を4つのテーマ別にエリアを区切り、各々のテーマに則った展示内容の構築に努めました。特にテーマ展示の一つでは「私達の平和創造宣言」と題し、「人間の安全保障」という切り口から、現代国際社会の複雑に絡み合った情勢と、それを読み解く展示構成に努めました。そして、これら一連の見学を通じ、「見て・聞いて・感じた」所見をアウトプットするエリアを設けました。各々来館者が平和に対して思う気持ちを言葉にしてアウトプットして展示会場に残します。それを次の来館者の目にもとまり、そして新たな気持ちを言葉にして行きます。来館者から来館者へのメッセージを紡ぐ環境を整えました。リニューアル後のミュージアムは、来館者が主体となって平和のパズルを解き、組み上げてくれる様な展示でありたいと願いながら、関係者が全力で挑戦した年度となりました。2023年9月のリニューアル開館へ向け、最終作業を引き続き進めます。

新館長のご挨拶

東アジアの平和創造の拠点として

きみじま あきひこ
君島 東彦 (立命館大学国際関係学部教授)



2023年4月に国際平和ミュージアムの館長に就任した者として、わたしなりの抱負を書かせていただきます。周知のように、当ミュージアムは、京都市民による平和のための戦争展の運動の成果と、本郷新のわだつみ像が象徴する立命館大学の戦争協力への痛切な反省という2つの要素が合流して1992年に開館したもので、それ以来、加藤周一氏、安齋育郎氏、高杉巴彦氏、モンテ・カセム氏ら歴代館長のリーダーシップにより今日まで充実した活動を続けてきました。吾郷眞一前館長のもとで始まった第2期リニューアルプロジェクトが進行中であり、現在その最終段階にあります。この時期に館長を引き継いだものとして、まずは9月23日のリニューアルオープンをめざして、リニューアルプロジェクトを完成させることに全力を尽くしたいと考えております。

いまリニューアルの最終段階で、新しい展示の全体像を少しずつ知りつつありますが、現時点でわたしが感じることは、我々はこの平和ミュージアムを東アジアの平和創造の拠点として生かしていくべきではないか、ということです。

当ミュージアムは1992年の開館以来、アジア太平洋戦争の加害と被害、この戦争に抵抗した人々の声、この戦争にともなう責任等についての展示を中心としてきました。これらの要素はリニューアル後の展示においても、拡大・深化していると思います。東アジアの

平和を破壊した日本帝国主義を直視し、戦後におけるその克服の努力を見つめ、また、直ちに冷戦・熱戦によって分断された東アジアの状況を伝える展示が続きます。さらに、平和創造の重要なアクターである国際機構や市民社会（NGO）の活動を紹介し、平和創造の出発点となる理念について説明を加えています。

リニューアル以前から東アジアの人々との関係は、当ミュージアムの核心部分でありました。わたし自身が記憶しているかぎりでも、中国の外交官の王毅氏、日本の政治家、河野洋平氏らの来館は重要な出来事であったと思います。日本帝国主義の克服に誠実に取り組む姿勢は、当ミュージアムの良心であるといえます。また、平和創造の方法として、国際機構と市民社会の役割を強調する点は、平和学の考察に立脚しています。

当ミュージアムは京都、関西圏はもちろん、日本各地から来館者を迎えています。これまでも東アジア諸国からの来館者はいましたが、リニューアル後、さらに東アジアを中心として世界各地からの来館者を迎えたいと思います。歴史に誠実に向き合う当ミュージアムの姿勢は、とりわけ東アジアからの来館者に対する重要なメッセージの発信であるといえます。わたしは、当ミュージアムの展示・活動を東アジアの対立・緊張を克服していくための触媒——「修復外交」の手段——として活用できないだろうか、と考えます。日本を含む東アジア諸地域の学生たちがこのミュージアムに集って、歴史和解・戦争予防のためのワークショップを開く。あるいは、立命館大学および他大学で学ぶ東アジアの留学生がミュージアムでスタッフあるいはインターンとして働く等々。

いま東アジアはある意味では危機の状況にあります。東アジアの平和は越境的な市民社会が下からつくっていくものであるとわたしは考えています。当ミュージアムも東アジア市民社会の一員として、東アジアの危機を克服するための役割を果たしたい。新館長としてわたしはそう切望しています。

第2期 リニューアルにむけて

2022年度の活動

リフレッシュ工事

2022年度は、2021年度にアカデメイア立命21に関わるトイレ改修や階段の付替えなど改修事項や企画展示室や無言館の配置、工事におけるゾーニング、施設の機能やサインなど、リフレッシュ工事を担当する会社との打ち合わせを行い計画した内容について、6月より本格的に工事を行いました。工事にあたっては、国際平和ミュージアムオフィス、本学管財課をはじめ、設計会社、工事施工会社、展示施工会社と1カ月に1度の総合的な打ち合わせを行い、壁材、床材、照明、サイン表示等のあり方について分科会を設定するなど事細かく確認しながら工事を進めていきました。

主な作業内容

6月～ 9月：天井、壁、トイレ等の解体と撤去

10月～12月：配管／配線工事・エレベーター改修・鉄骨搬入と組立・建具や器具の取付

1月：EVホール他仕上げ・造作家具搬入と加工据付・美装

2月：サイン表示、立会検査を経て引き渡し

2月末にリフレッシュ工事は終了し、立会検査などを経て無事に引き渡しを受けました。リフレッシュ工事は終了となりましたが、9月の開館までに、事務室の移転やメディア資料室、ピースcommonsなどへの什器の配置などの作業は続きます。



リフレッシュ工事後の館内の様子

リニューアルに向けた来館者促進の取り組み

2023年9月にリニューアル開館するにあたり、2022年9月より小中学校など学校を中心として団体予約受付を開始しました。

団体予約受付を行うにあたっては、予約を受け付けるための具体的な内容や受入基準、予約受付手順や書類を整えました。また、予約を促進するために国際平和ミュージアムの概要およびリニューアルの内容紹介、団体予約を行うにあたっての方法や、ミュージアムの利用の仕方などを掲載したリーフレットを制作し、大学の外部に関しては、過去にミュージアムを利用いただいた学校や近隣の学校をはじめ、教育委員会、旅行会社、大学の内部に関しては、各学部および附属校に配布するなど団体予約の促進を行いました。

その他にも、リニューアルの様子をホームページに掲載し、展示室までの階段の付替えの様子やメディア資料室およびピースcommonsなど新しくなっていく作業風景などを掲載することで、来館促進への意欲を醸成する取り組みを行いました。

常設展示リニューアルの取り組み

「国際平和ミュージアム第2期リニューアル『基本設計』」（2021年8月23日）、「国際平和ミュージアム第2期リニューアル『実施設計』」（2022年1月14日）に基づき、実際の展示内容についての制作を開始しました。

1840年アヘン戦争からはじまり2020年以降の現代までを取り扱う、戦争と平和の歴史をたどる年表展示と、各時代をより深く知るために設けられた4つのテーマ展示を中核として学術議論を重ねました。展示資料のほか写真、画像など展示資料の選定、映像展示の素材収集、制作など展示施工会社と協議をくり返し、展示空間をつくり上げていきました。

春学期間は年表展示でとりあげる事象について、空間に配置できる物理的な分量を鑑みながら時代の要素を取りまとめる作業が中心となりました。時代の項目が決まった段階で、学内外より55名の研究者、専門家の協力を得て解説文を作成し平和博物館として時代を総覧した年表の素材を決め込んでいきました。秋学期以降は、来館者にいかに伝わる内容に構成し直すかを中心に、展示施工会社との協議を行いました。テーマ展示では、主題となるテーマに基づいて、どういう手段で伝えていくか展示手法の精査を行いました。

今回のリニューアルでは、大きな時代の流れと合わせて、普通の人々の言葉、証言を取り上げ、来館者に時代の雰囲気を感じ取ってもらうことを意識しています。誰のどのような言葉を取り上げるのかも試行錯誤を繰り返しました。時として歴史のなかに埋もれてしまう人びとの声をひろいあげ、物事を多角的に見通す視点を提示することを試みています。

また、全体を貫く展示骨子として「peace × piece」を掲げることとしました。専門的な内容に偏りすぎると歴史上の個別事象同士の連続性が見出しにくいこともありますが、その個別の事象をカケラ (piece) ととらえて、来館者自身がカケラ同士のつながりに自分なりの意味を見出し、平和創造のきっかけ (peace) を見つけるというコンセプトのもと、展示のデザインを進めました。

「問い」から始まる平和創造への入り口としての展示リニューアルも、いよいよ開館へ向けて最後の段階へと向かっています。



常設展示リニューアルの取り組み・展示ストーリー概念図

第2期 リニューアルにむけて

ボランティアガイド向けリニューアル説明会

多くの方にご参加いただけるよう、オンライン併用形式で、当館ボランティアガイドおよび平和友の会の皆さんに向けたリニューアル説明会を行いました。29名の方にご参加いただいた一方で、音声トラブルの発生など、特にオンライン参加の方にご迷惑をおかけする場面もあり、今後の課題が残りました。

当日は市井副館長より、当館のリニューアル実施計画に沿って、リニューアル全体の概要や施設の改修、新たな展示のストーリー展開やイメージ等について、資料の画像を用いながらご説明しました。

参加いただいた皆さんからは、展示の詳細に関する多岐にわたる質問や要望、新しい展示に対する期待の声や、今後ガイドを行うにあたっての意気込みなどもお話いただきました。長らくガイド活動を休止しているにも関わらず、ボランティアガイドの皆さんが国際平和ミュージアムに高い関心を持ってくださっていることが感じられました。

ガイド活動の休止、加えて新型コロナウイルスの影響もあり、ボランティアガイドの皆さんが直接集まる機会も少なかったため、今回の説明会が久しぶりに顔を合わせる良い機会になったとの声もありました。

今後もボランティアガイドの皆さんに状況に応じてリニューアルの進捗をお知らせするとともに、リニューアル後のガイドに向けた研修等を実施し、リニューアルオープンに向けた準備を進めてまいります。

学生スタッフリニューアル展示ワークショップ

2022年4月から9月にかけて、当館学生スタッフに向けたリニューアル展示ワークショップを実施しました。このワークショップは、学生スタッフにリニューアルの概要を理解してもらうこと、また展示予定の「問いかけひろば」で示す問いのアイデアを学生スタッフに考案してもらうことで、学生スタッフがリニューアルに携わる機会とすることを目的に行いました。

まず、数回に分けて学生スタッフにリニューアルの概要を説明した後、展示の一部である「問いかけ展示」で示す問いのアイデアをまとめてもらい、最後にアイデアの発表会を実施する流れで進めました。

本ワークショップは、これまで「資料整理」と「展示ナビ」に分かれて業務を行っていた学生スタッフが、一貫して共同で活動する初めての機会となりました。最初は意見を出し合うことや、来館者にとって「気づき」の機会となる問いを考えることに苦労する様子うかがえましたが、しかし次第に、各自の興味関心や正課での学び、学生生活全般の経験を基にした問いのアイデアが出るようになり、活発な議論がなされました。また、どうすれば来館者に伝わるかという点や、自分事として考えてもらうために、身近な問題から世界の問題につなげるという点にも真剣に向き合う様子うかがえましたが、

最後の発表会では2グループに分かれ、それぞれ「生きづらさ」と「貧困問題・経済格差」をテーマにした問いかけの案を発表して意見交換を行いました。各グループのアイデアに対し、感想や新たな気づき、改善点のアイデアも出されました。学生スタッフ同士にとっても視野が広がる機会になり、「こういった機会があればまた携わりたい」といった感想もありました。

本ワークショップで学生が考案した問いかけのアイデアについては、リニューアル後の展示の中で、随所に登場する予定です。



2023年度の活動

総括のページでも記述しましたが、ミュージアム第2期リニューアルプロジェクトは9月23日の再開館へ向けての制作作業も最終段階に差し掛かっています。常設展示場工事が完成した後に、展示資料の燻蒸等を経て配置作業を進めます。並行して、来館者へのガイドブックや図録の作成も進めています。また、開館後に訪れていただく来館者へのミュージアムガイド業務のあり方が極めて大切と考えています。リニューアル前のガイドスタイルはどちらかというと、ガイドスタッフから来館者への詳細な説明に努めるレクチャー型でありました。今次これを、来館者が見て・聞いて・感じたことを、ガイドスタッフとの対話を通じて更に認識を深化してもらえるスタイルへ変更します。

ガイドスタッフには、来館者との対話を促すファシリテーション技能も身に付けて頂くことを願っています。対話を通じ、個々の来館者が未来の平和創造へ思いを馳せ、小さな一歩、しかしながらとても大切な一歩を踏み出す志を持ってミュージアムを出発してもらえる様なミュージアムを想定し、開館を迎える予定です。



常設展示工事中の様子

WEB展示

リニューアル休館中における活動の一環として、「WEB常設展示」「ミュージアム資料」などの紹介をホームページで公開しています。2022年度は、史資料の利活用および情報発信を図るための取り組みとして、新たな寄贈資料の紹介およびアカデミア立命21のリフレッシュ工事および、常設展示室のリニューアル工事の進捗報告を公開しました。

寄贈資料紹介 報告

2022年度は、リニューアル休館中におけるミュージアムに収蔵されている史資料の利用と活用および情報発信を図るための取り組みの一環として2021年度にひきつづき、寄贈いただいた資料に注目し、資料の詳細についてホームページにて公開しました。今回は、京都に関わる資料（戦時下のラジオ体操）を当時のエピソードとともに紹介しました。このように地域資料の掘り起こしを行うことで、資料調査の基礎的作業の成果としても公開することができました。

寄贈資料紹介

当館は開館以来、一五年戦争や平和に関するさまざまな資料の収集・保管に努めてきました。そのなかでも、寄贈による資料は約四万件にのぼり、これらは当館の展示・研究活動の大きな支えとなっています。現在、寄贈の受け入れについては、リニューアル工事のため2021年11月末で停止しており、受け入れ再開は2023年9月のリニューアルオープン後を予定しております。ここでは、貴重な資料を寄贈してくださいました皆様にあらためて御礼申し上げますとともに、寄贈いただいた資料の一部を紹介させていただきます。



寄贈資料紹介（不定期更新）

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/20220913-0/>



アカデミア立命21リフレッシュ工事および、常設展示室リニューアル工事報告

進捗報告

2021年度からはじまったアカデミア立命21のリフレッシュ工事ですが、2022年度は建物の本格的な工事が行われました。階段の付替えなど、建物の様子が変わっていく状況を2回にわたってホームページにて紹介しました。内装の取り壊しから完成までの一連の躯体工事の状況を画像など使用して報告しています。あわせて、リフレッシュ工事の打合せや常設展示室における資料計測といった展示制作の裏側や、学生ワークショップ、ボランティアガイド募集など、リニューアルに関わるミュージアム活動についても紹介しています。



工事の様子① 大階段の解体撤去

大階段を解体撤去しました。壁には新設窓が取り付けられ、足場も取り付けられ、仮下足場が設置されています。



リニューアル進捗状況報告（不定期更新）

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/floorguide/renewal/>

https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/floorguide/renewal/renewal_2/



国際平和ミュージアム主催イベント開催報告

新型コロナウイルス感染症の状況や企画の性質を勘案した上、オンラインまたは対面での開催方法を追及しました。ロシアのウクライナ侵攻、沖縄本土復帰50周年など、国際情勢・時事に合わせて、本学学生・院生の興味関心が高いと思われるイベントを実施しました。

各イベント参加者のアンケート結果ではおおむね「満足」との回答を頂き、高い満足度が得られました。

No War

ウクライナに平和な日常を！

Peace for Ukraine

日時：2022年6月11日(土)15:00~16:30

会場：立命館大学末川記念会館大講義室

参加者：85名

主催：立命館大学国際平和ミュージアム

プログラム

【1部】希望の大地・ウクライナを謳う

演奏者：カテリーナ・グジー氏 (ウクライナ民俗楽器バンドウーラ奏者)

演奏曲目：・幸せの鳥 (ウクライナ民謡) ・金色の花 (ウクライナ民謡)

・母への道 (ウクライナ民謡) ・ウクライナ (ウクライナ曲)

・翼をください

【2部】紙芝居で笑おう・ことばを超えて笑おう！

おとなも子どもも、みんないっしょにワッハッハ

演者：だんまる (ヤッサン一座の紙芝居)

2022年2月24日、プーチン大統領のロシア軍が、突如ウクライナに侵攻し、首都キーウなどウクライナ全土が戦場と化しています。戦火を逃れて、500万人を超える人たちが国外に避難しており、その大半は子ども、女性、老人です。日本に避難してきたウクライナの人たちを励まし、連帯すること、そして立命館大学生をはじめ若い世代や市民が暴力や戦争を許さない決意を共有し、平和に生きる世界を構築するために何をすべきかを考える機会を得ていただくために本企画を開催しました。

No War
ウクライナに平和な日常を！
Peace for Ukraine

想像してください。
ある日、隣国から侵襲してきた軍隊によって、あなたとあなたの家族の日常が、一瞬にして奪われたとしたら、プーチン大統領の2022年2月24日、ウクライナの人たちは、プーチン大統領のロシア軍によって突如日常の暮らしを奪われました。
戦火を逃れて国外に避難した市民は500万人を超えています(4月19日現在)日本に身を寄せたウクライナ人は664人(4月19日現在)人も街も破壊にさらされる祖国を恋しながら、希望を見つけて生きていくには、これから大きな困難が予想されます。
本企画は、皆さんとともにウクライナの人々を励まし、連帯するために企画しました。紙芝居と共に笑い、ウクライナの音楽を聴きながら、つらい現実に向き合ってください。そして、若い世代や市民が暴力や戦争を許さない世界、平和に生きる社会を築くために何が出来るかを一緒に考える機会にできればと思っています。

1部/希望の大地・ウクライナを謳う
ウクライナの民族楽器バンドウーラ奏者 カテリーナ
2部/ 紙芝居で笑おう！ことばを超えて笑おう！
ヤッサン一座の紙芝居 だんまる

2022年6月11日(土) 10:00~11:30
立命館大学末川記念会館 大講義室
無料(先着100名・事前申込制 6/7(火)締切り)
wp-event@stiritsumel.ac.jp
「ウクライナに平和な日常を！」企画参加申込」と明記し、お名前・所属を添えて上記メールへ

◆注意事項
感染症拡大防止の観点から、急遽企画の中止、実施形態の変更を行う場合があります。
ご参加にあたってのお願いや詳細についてはお申込み後にお知らせします。

主催：立命館大学国際平和ミュージアム
後援：公益財団法人京都市国際交流協会



沖縄復帰50周年記念

谷ノ上朋美 ひとり芝居「ゆんたくしましうね」

沖縄復帰50周年記念
谷ノ上朋美 ひとり芝居 「ゆんたくしましうね」



作・演出
樋口ミユさん

出演
谷ノ上朋美さん

戦争のこと、沖縄のこと、じぶんのおぼあのこと、
おぼあはこの島の生き残りだー

谷ノ上朋美さんのお母様のご出身は沖縄県浦添市。ご祖母様は、沖縄戦で両親兄弟姉妹を一時にして失い捕虜となり、たった一人で生き延びられました。劇作家の樋口ミユさんと現地沖縄ガイドの方と共に時間をかけて沖縄戦を辿り学んだドキュメンタリーが、舞台脚本のベースとなっています。

12月10日(土)13:00開演(12:30開場)
第1部:谷ノ上朋美さん ひとり芝居「ゆんたくしましうね」、三線演奏
第2部:本学学生とのトーク(谷ノ上さん、君島東彦先生)&エイサー披露
16:00頃 終演

■参加無料(先着40名・事前申込制)
本学学生・院生(優先)受付
10月26日(水)~
一般参加者受付
11月10日(木)~

*6歳以下のお子様のご参加につきましては事前にご相談ください。

谷ノ上朋美さん
(たにのうえ ともみ)
オフィシャルHP 
<https://puremonologue.com/>

【会場】立命館大学衣笠キャンパス 衣笠キャンパス アクセス
平井嘉一郎記念図書館
カンファレンスルーム 
(お問合せ)
立命館大学 国際平和ミュージアムオフィス
TEL: (075) 465-5151 (平日9時~17時30分)

感染症拡大防止の観点から、急遽企画の中止、実施形態の変更を行う場合があります。 主催:立命館大学国際平和ミュージアム

日時: 2022年12月10日(土)13:00~16:00

会場: 立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

参加者: 28名

主催: 立命館大学国際平和ミュージアム

プログラム

【1部】ひとり芝居「ゆんたくしましうね」

作・演出: 樋口 ミユ氏 (Plant M)

主演: 谷ノ上 朋美氏 (ピュアモノローグ)

演奏(楽器: アフリカンジャンベ): 垣内 大樹氏

【2部】エイサー演舞

演舞団体: 琉球國祭り太鼓

【3部】トーク

出演者: 谷ノ上 朋美氏、本学学生スタッフ3名

司会: 君島 東彦氏 (立命館大学国際関係学部教授)

【4部】歌とジャンベ

歌: 谷ノ上 朋美氏

演奏(楽器: アフリカンジャンベ): 垣内 大樹氏

沖縄が日本に返還され、2022年に50周年を迎えました。

現在も浦添市に在住する谷ノ上氏のご祖母様は、沖縄戦で8人の両親兄弟姉妹を一時に失われました。たった一人で、今もなお多くの問題を抱える沖縄という地で、戦後の厳しい時代を生き抜いてきたご祖母様の思いや、戦禍のなか命を繋いだ先人たちの想いを受け、劇作家の樋口ミユ氏と現地沖縄ガイドの方と共に時間をかけて沖縄戦を辿り学んだドキュメンタリーが、舞台脚本のベースとなっています。

舞台では、谷ノ上氏お一人で何役もこなされた迫真の演技に加え、共演者の垣内氏の厳かなアフリカンジャンベの音が会場を包み込みながら大きな感動を呼び、沖縄の戦没者への追悼の想いと今日の平和な日常への感謝の想いを参加者が共有する場となりました。

次に、エイサー演舞では、非常に迫力のある舞踊が観客を引き込み、アフタートークでは、終始和やかで穏やかな雰囲気の中、学生スタッフのひとり芝居の感想、沖縄への想い、また平和、人権、命の大切さへの思いを、出演者や参加者で共有できました。

最後に、谷ノ上氏の歌と垣内氏のジャンベで本企画を締めました。

なお、アンケート回答では、全員の方に「非常に満足」「満足」とご回答頂きました。



平和教育研究センター活動報告

2022年2月24日に発生したロシアによるウクライナ侵攻を受け、その1カ月後に、国際法の立場から見るWEB討論会を開催。続く第2弾として、5月20日に「国際政治」の視点に立ち、学内外より国際政治研究の第一人者をお招きして、討論会を開催いたしました。ロシア・ウクライナ政治がご専門の方から最新の情報提供をいただき、考察し、事態の即時収束を切に願うことが企画の趣旨でした。討論会では、学外の国際政治の専門家（下斗米先生、浜先生）からご講演いただいた後、本学の先生（宮脇先生、ライカイ先生）からご意見、コメントをいただく形で実施しました。

1 センター企画・公開講演会

立命館土曜講座

帝国日本の戦争と労働者・女性

一戦時動員と植民地支配、「引揚げ」の歴史から考える一

①アジア・太平洋戦争と「徴用工」

一帝国日本の労働力動員一

日 程：2022年8月6日📅

講 師：佐々木 啓氏（茨城大学人文社会科学部准教授）

②彼女たちの引揚げ

一性暴力被害者の帰還と「混血児」排除をめぐる一

日 程：2022年8月27日📅

講 師：山本 めゆ氏（立命館大学文学部准教授）

オンライン講演会・討論会

「国際政治の視点から見る

ウクライナをめぐる問題についてのWeb討論会」

日 時：2022年5月20日📅16:30～18:00

特別講師：下斗米 伸夫氏（神奈川大学特別招聘教授・法政大学名誉教授）

浜 由樹子氏（静岡県立大学国際関係学研究科准教授）

コメンテーター：

宮脇 昇氏（立命館大学政策科学部教授）

ライカイ・ジョンボル氏（立命館大学国際関係学部教授）

ファシリテーター：

吾郷 真一氏（立命館大学衣笠総合研究機構教授／
立命館大学国際平和ミュージアム館長）

2 プロジェクト研究

平和博物館における戦争体験継承

平和博物館における戦争体験継承の在り方を、理論、実践両面から検討し、戦争体験者のいない次世代における平和博物館の展示の在り方を提起します。

①第13回ワークショップ

「植民地歴史博物館の設立過程と展示の特徴」（オンライン開催）

日 時：2022年6月24日📅17:30～19:00

講 師：野木 香里氏（植民地歴史博物館専任研究員）

参加者：14名

②第14回ワークショップ

「平和博物館の前史を再確認する：

「平和のための京都の戦争展を中心に」（オンライン開催）

日 時：2022年7月17日📅13:00～15:00

講 師：福島 在行氏（平和のための博物館市民ネットワーク）

参加者：13名

③第15回平和博物館における戦争体験継承

プロジェクトワークショップ／

第27回メディア資料研究会

「戦争体験のない世代が伝える戦争の記憶2

～自由学園の勤労働員学徒川田文子さんをめぐって～」

（オンライン開催）

日 時：2023年3月3日📅17:30～19:30

参加者：50名

・「川田文子さんと私たち～知るために・忘れないために～」

講 師：山澤 遥乃氏（自由学園最高学部（大学部）1年生）

山澤 綾乃氏（自由学園最高学部（大学部）1年生）

- ・『川田文子さんのこと』の周辺
～自由学園における学徒勤労動員、その記録と記憶
講 師：村上 民氏 (自由学園資料室主任研究員)



山澤 遥乃氏 (左)・山澤 綾乃氏 (右)

博物館の資料研究 (一五年戦争セクション)

一五年戦争の実態や戦争が、その後の社会や人々に与えた影響に関する調査研究の中に当館資料を位置づけ、調査研究の進展、資料の活用促進、若手による資料研究の促進を目指します。

メディア資料研究会 (すべてオンライン開催)

①第24回メディア資料研究会

「ミュージアム展示における個人資料・証言の価値
—沖縄・南洋群島を事例に—

日 時：2022年4月8日(金)17:45～19:30

報告者：森 亜紀子氏 (同志社大学〈奄美・沖縄・琉球〉研究センター嘱託研究員)

参加者：16名



森 亜紀子氏

②第25回メディア資料研究会

「博物館展示におけるエゴ・ドキュメントの可能性」

日 時：2022年6月3日(金)17:00～19:00

参加者：12名

- ・「普通の人びと」が見た満州事変
—エゴ・ドキュメント研究の視座から—
講 師：福井 優氏 (立命館大学大学院文学研究科博士課程後期課程3回生)
- ・「一五年戦争中国側の日記資料—その利点と欠点—」
講 師：唐 鈺氏 (立命館大学大学院文学研究科博士課程後期課程3回生)

- ・「昭和期におけるアイヌの人々のエゴ・ドキュメントに関する調査報告
—戦時下に焦点を当てて—」

講 師：佐々木 梓氏 (立命館大学大学院文学研究科博士課程前期課程2回生)

コメンテーター：

細谷 亨氏 (立命館大学経済学部准教授／
立命館大学国際平和ミュージアム副館長)

③第26回メディア資料研究会

「日本帝国北辺の「波打ち際」

—サハリン島におけるいくつかの強制された移動と不動」

日 時：2022年7月25日(日)17:30～19:00

講 師：竹野 学氏 (北海商科大学商学部教授)

参加者：14名

④第27回メディア資料研究会／

第15回平和博物館における戦争体験継承

プロジェクトワークショップ

「戦争体験のない世代が伝える戦争の記憶2

～自由学園の勤労動員学徒川田文子さんをめぐって～

日 時：2023年3月3日(金)17:30～19:30

参加者：50名

- ・「川田文子さんと私たち～知るために・忘れないために～」

講 師：山澤 遥乃氏 (自由学園最髙学部 (大学部) 1年生)

山澤 綾乃氏 (自由学園最髙学部 (大学部) 1年生)

- ・『川田文子さんのこと』の周辺

～自由学園における学徒勤労動員、その記録と記憶」

講 師：村上 民氏 (自由学園資料室主任研究員)

博物館の資料研究 (戦後社会セクション)

戦後社会の中で市民が平和を求めた動きの見直しと再評価に繋がる資料収集、調査、研究、展示を行います。

①特別講演会 「生きる場の思想」

日 時：2022年6月4日(土)13:30～16:00

会 場：立命館大学末川記念会館1階講義室

およびオンライン

参加者：98名

- ・講 演「共生」をめぐって
講 師：花崎 皋平氏
- ・講 演「タントアナクネピリカ 今日は良い日だ」
講 師：原田 公久枝氏
- コーディネーター、司会：
番匠 健一氏 (広島国際学院大学情報文化学部准教授／
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育センターリサーチャー)

②紀要『立命館平和研究』第24号への投稿

発行日：2023年3月24日

「ワークキャンプ運動、「ハンパク」、故郷」

執筆者：徳永 進氏 (野の花診療所院長)

番匠 健一氏 (広島国際学院大学情報文化学部准教授／
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)

田鍬 美紀氏 (立命館大学国際平和ミュージアム学芸員)

大野 光明氏 (滋賀県立大学人間文化学部准教授／
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)

③聞き取り調査内容をまとめた報告書の発行準備

自衛隊基地の地域社会史

自衛隊（及び米軍）と地域社会の歴史的関係に着目した「広義の軍事化」研究を行います。

フィールドワーク

①北海道矢臼別軍事演習場

日程：2022年8月31日🌞～9月13日🌞

②大分県日出生台軍事演習場

日程：2022年10月29日🌞～30日🌞

③奄美大島陸上自衛隊駐屯地及び分屯地

日程：2023年3月24日🌞～29日🌞

④映画上映

「風の記憶 湯布院一日出生台1996～2022」上映会

日程：2023年3月18日🌞

場所：ハチドリ舎（広島市）

（オンライン（Zoom）による配信あり）

司会：番匠 健一氏 (広島国際学院大学情報文化学部准教授／
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)

ゲスト講師：浦田 龍次氏 (ローカルネット大分)

番匠 健一氏 (広島国際学院大学情報文化学部准教授／
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)

中島 弘二氏 (金沢大学人間科学系教授)

⑤北海道における自衛隊基地周辺の地域社会の歴史と

現状ワークショップ

日程：2023年3月21日🌞・🌙

会場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパスD号館D311号室

⑥紀要『立命館平和研究』第24号における巻頭特集

発行日：2023年3月24日

「特集・「軍事化」と地域社会」

執筆者：番匠 健一氏 (広島国際学院大学情報文化学部准教授／
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)

「地域社会における軍事化と抵抗

—陸上自衛隊日出生台演習場を事例として—」

執筆者：中島 弘二氏 (金沢大学人間科学系教授)

「1960年代の北海道東部矢臼別演習場における自衛隊演習と農民運動」

執筆者：番匠 健一氏 (広島国際学院大学情報文化学部准教授／
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー)

「東京・立川飛行場への自衛隊移駐をめぐる基地紛争（1968-1978年）」

執筆者：松田 ヒロ子氏 (神戸学院大学現代社会学部教授)

「海上幕僚監部調査部発行『隊員への接近の手口』からみる国民への視線」

執筆者：津田 壮章氏

京都大学大学院人商・環境学研究科博士後期課程／
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチ・アシリエイトノ／
日本学術振興会特別研究員DC2

京都国際比較人権セミナー

国際比較法的な観点から見た人権問題の研究を行います。

セミナー・シンポジウム・研究会・講義

①平和教育研究センター共催

オンラインセミナー

テーマ：The adaptation of Scottish Courts to the pandemic:
an innovative new chapter for the Justice system

日時：22 April 2022 (Friday)

9.00 (BST) / 10.00 (CET) / 17:00 (JST)

司会・進行：Ian Forrester QC LLD

(President of the FBLs. Formerly Judge of the General
Court of the European Union from 2015 to 2020.)

パネリスト：The Right Hon Lord Carloway、他

②講演会

テーマ：執行官業務と人権保障

日時：2022年5月9日🌞13:00～14:30

会場：立命館大学存心館311号教室

講師：小坂 由人氏 (京都地方裁判所執行官)

③予備国際ワークショップ

テーマ：International Online-Workshop on E-Justice, ICT,
Data Protection and Human Rights

日時：27 May 2022 (Friday)

10:00～12:00 (CET)/

11:00～13:00 (Jerusalem Time)/

17:00～19:00 (Japan)

講師：Prof. Shimon Shetreet

(Greenblatt Chair of Public and International Law,
Faculty of Law, Hebrew University of Jerusalem)

Prof. Dr. Foroud Shirvani

(Professur für Öffentliches Recht, Gottfried-
Meulenbergh-Stiftungsprofessur Universität Bonn)

④講演会

テーマ：ジョン・コルトレーンと平和人権

日時：2022年6月1日🌞14:40～16:20

会場：立命館大学創思館カンファレンスルーム

講師：藤岡 靖洋氏

⑤講演会

テーマ：民事訴訟における基本的人権の保障

日時：2022年6月6日🕒13:00～14:30

会場：立命館大学存心館311号教室

講師：清水 正憲弁護士 (元京都大学法科大学院客員教授)

⑥平和教育研究センター共催

Lecture : The primacy of EU law over national law

テーマ：Rule of law contested - the Case of the Polish Constitutional Court

日時：18. June 2022 (Saturday) 10:40～12:10

会場：立命館大学存心館311号教室

講師：Prof. Dr. Michael Reiterer

(EU-Ambassador ret., Centre for Security, Diplomacy & Strategy at the Brussels School of Governance)

⑦平和教育研究センター共催

比較司法制度研究会

テーマ：アメリカ連邦最高裁判所と人権保障

日時：2022年6月29日🕒14:40～16:10

会場：立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

講師：Prof. Eddie Correia

(American University's Washington College of Law / 立命館大学法科大学院客員教授)

⑧平和教育研究センター共催

比較司法制度研究会

テーマ：弁護士の役割と魅力について

日時：2022年7月5日🕒10:40～12:10

会場：立命館大学存心館311号教室

講師：鈴木 治一氏 (京都弁護士会会長・立命館大学OB)

⑨京都国際比較人権セミナー

テーマ：デジタル化社会・異文化交流と人権

日時：2022年10月31日🕒14:40～16:10

会場：立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

講師：Prof. Dr. Dorit Kluge

(Academic ERASMUS+ Coordinator, VICTORIA | Internationale Hochschule)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

⑩ Online-Seminar on: Civil Enforcement Agency Latin America,

The Court-Centered Enforcement Institutional Models:

Still Efficient?

日時：16. November 2022 (Wednesday)

06:00 (Mexico)

07:00 (Peru, Colombia)

09:00 (Argentina, Chile, Uruguay, Brazil)

21:00 (Japan)

講師：Prof. Álvaro Pérez Ragone

(Pontificia Universidad Católica del Perú)、他

⑪平和教育研究センター共催

京都国際比較人権セミナー

テーマ：ドイツにおけるコロナ対策と人権

日時：2022年11月21日🕒16:10～17:50

会場：立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

講師：Prof. Dr. Dr. Karin Michels

(UNIVERSITÄTSKLINIKUM FREIBURG Institut für Prävention und Tumorepidemiologie)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

⑫平和教育研究センター共催

京都国際比較人権セミナー

テーマ：予防司法としての公証人の役割と人権保障

日時：2022年11月30日🕒14:40～16:10

会場：立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

講師：西浦 久子氏・公証人 (京都公証人合同役場)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

⑬京都国際比較人権セミナー

テーマ：日独伊三国同盟は幻の軍事・経済同盟だったのか

日時：2022年12月14日🕒14:40～16:10

会場：立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

講師：手塚 和彰氏 (千葉大学法経学部名誉教授 / 弁護士 / 元ケルン日本文化会館館長)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

⑭平和教育研究センター共催

比較司法制度研究会

テーマ：1. Position of the Judicial Officer in the Netherlands
2. The Dutch Preliminary Procedure Questions from lower courts to the Dutch Supreme Court

日時：2023年3月9日🕒15:00～18:00

会場：立命館大学創思館カンファレンスルーム

講師：Prof. Dr. Bart Krans (Law Faculty of Leiden University / 立命館大学法学部客員教授)

司会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

⑮ International Workshop in Kyoto 2023

テーマ：E-Justice, Information Technology, and Human Rights

日程：2023年3月12日🕒～14日🕒

会場：立命館大学創思館カンファレンスルーム

講師：Prof. Johannes Masing (Freiburg University (Germany))、他

3.11後の平和博物館の展示内容の改善と 展示パネルの制作

2011年3月11日の東日本太平洋沖地震と津波によって、福島第一原発は外部及び内部の電源を失い、核燃料溶融を起こして未曾有の原子力災害をもたらしました。本研究では半ば完成した日本語版の「展示：福島第一原発事故が意味するもの」をアップデートし、すでに進めている英語版を完成させます。

3.11関連の展示セットの制作

- (1) 福島原発事故はなぜ起きたのか？ (36枚セット)
- (2) 原発過酷事故の過去・現在・未来 (85枚セット)
- (3) 原発事故は「福島原発事故が最悪」と思っていない (36枚セット)
- (4) 隠し屋東京電力 (36枚セット)
- (5) 「福島原発事故炉の廃炉のロードマップと福島の復興」 (36枚セット)

パンデミック下のオンライン戦争展の構築

国内外の平和博物館と連携したオンライン戦争展構築の制作を行います。

- ・2022年10月17日(月)にアウシュヴィッツ平和博物館(福島県白河市)の小淵 真理館長と相談。
- ・30枚のパネルセットを製作中、15枚は原案作成済み。

附属校平和教育研究会

多様な附属校平和教育の充実を目指すとともに、附属校平和教育実践の発信を行います。

①2022年度附属校平和教育研究会

- 第1回 2022年5月26日(土)16:00~17:00 (オンライン開催)
- 第2回 2022年7月26日(水)10:00~12:30
会場：立命館大学洋洋館
国際平和ミュージアムオフィス会議室
- 第3回 2023年2月28日(水)16:00~17:00 (オンライン開催)

②沖縄平和研修旅行コース開発視察

- 日程：2022年7月21日(土)~23日(月)
- 出張者：右谷 浩氏 (立命館大学国際平和ミュージアム
平和教育研究センター運営委員)

「平和」をテーマとするマンガ・ オンライン展覧会 プロジェクト

コロナ禍、ウクライナ問題といった「平和」を脅かす「暴力」が生まれつつある現代を、一般公募の「オンラインマンガ展」というメディアを持って記録します。

①マンガ・パンデミックWeb展2022の実施

(公開作品数242件)

会期：2022年10月15日(土)~12月31日(土)

②研究プロジェクト構成メンバーとオブザーバーによる総括会議

日程：2023年3月3日(土)

形式：ハイブリッド

被爆の実相の継承と、平和のための博物館の 国内・国際ネットワークの構築・強化

子どもや市民を対象に、被爆の実相の継承をZoomにて行います。また平和のための博物館市民ネットワークと平和のための博物館国際ネットワークの構築・強化をしていきます。

①平和のための博物館市民ネットワーク・オンライン 学習会

日程：2022年4月23日(土)

- ・「非核の火、原発悔恨・伝言の碑およびヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館のこころ」

報告者：安斎 育郎氏 (立命館大学名誉教授/
立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)

- ・「原発事故の被災地・福島を訪ねて思うこと」

コメント：村本 邦子氏 (立命館大学総合心理学部教授)

②未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト

オンライン夏休み親子向け企画

日程：2022年7月30日(土)

演目：『親子で知るヒロシマ1』

～紙芝居「おばあちゃんの人形」(お話 花垣ルミさん)～

お話し：花垣 ルミ氏

司会：二瓶 瑠菜氏

運営サポート：山根 和代氏、島村 雅人氏

③各種通信の発行

2022年

9月：INMP通信(英語版および日本語版)

6月・9月・12月：通信ミュージズと英文通信Muse

2023年

3月：通信ミュージズ

④ 「平和のための博物館市民ネットワーク」

全国交流会（オンライン開催）

日程：2022年12月

⑤ 「平和のための博物館市民ネットワーク」

運営委員会の実施

3 センター活動の発信

紀要『立命館平和研究』第24号発行

巻頭特集

「軍事化」と地域社会

(番匠 健一、中島 弘二、松田 ヒロ子、津田 壮章)

ほか

論文 3本

講演録・調査・研究・実践報告 3本

発行日：2023年3月24日発行

教育普及活動報告

教材キット・パネル、展示パネル、DVDの貸し出し

2021年度に引き続き、「現代（さいころくん）」を含む当館の常設展巡回展示キットを生命科学部、スポーツ健康科学部およびOICライブラリーに協力をいただき、BKC、OIC 2キャンパスで展示を実施しました。

また、展示パネル貸出件数8件のうち、6件が夏期（7月～8月）に学外団体の展示会等で利用され、参加者の方から大きな反響がありました。

2021年度に開発したDVD「デジタル平和講義・講話」は、平和博物館や保育園など、幅広い世代の方に利用され、「戦争体験者の方々の言葉には説得力があり、身近に感じることができた」などの感想をいただき、当館からのメッセージを発信することができました。

- ・現代（さいころくん）キット（※2022年度末で貸出終了）
- ・一五年戦争（慰問袋）キット
- ・「原子力と私たちの生活」パネル

2022年度の利用状況は以下のとおりです。

	小学校	中学校	高校	その他	合計
現代（さいころくん）キット	6	0	0	2	8
一五年戦争（慰問袋）キット	4	0	0	1	5
「原子力と私たちの生活」パネル	0	0	0	0	0
合計	10	0	0	3	13

各種展示会で活用いただける「展示パネル」の貸出も行っています。

() 内の数字は2022年度の利用状況

- ・原子爆弾：広島・長崎の記録 (1)
- ・原爆と人間展 (2)
- ・沖縄戦と基地 (3)
- ・井戸も掘る医者：ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画 (1)
- ・ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間 (1)

国際平和ミュージアムの休館中の取り組みとして

「DVDによる教育普及ツール」の貸出も行っています。

() 内の数字は利用状況

2021年度

- 「科学的な見方・考え方」(安齋 育郎 名誉館長) (1)
 - 「学校は兵営のようになった」(村尾 孝) (1)
 - 「国民総動員の中での体験～小学校時代～」(馬場 央) (1)
 - 「国民総動員の中での体験～女学校時代～」(馬場 央) (1)
 - 「兄弟四人の戦争」(村尾 孝) (1)
- (2団体5件)

2022年度（役職名は2022年度時点）

- 「国連と平和」(吾郷 眞一 館長) (1)
 - 「戦争中の子ども」(布川 庸子) (1)
 - 「兄弟四人の戦争」(村尾 孝) (1)
- (2団体3件)

博物館資料（資料収集・保管・利活用）

資料・図書の受入（寄贈・寄託）

2022年度における資料・図書の寄贈受け入れ状況は以下のとおりです。なお資料については休館中のため基本的には寄贈の受け入れ、貸出閲覧業務は中止しており、一部のみ受け入れました。

また収蔵資料データベースを学内サーバーから学外サーバーへ移管する作業を進めました。

登録収蔵資料数	寄贈・購入資料	42,002件
	寄託資料	4051件
	合計	46,053件

(2023.3.31 現在)

2022年度資料寄贈

●個人・団体……………8件 1,545点

●主な資料

梅林宏通資料 米公文書館調査に基づく米軍および米国務省文書。

佐藤行通資料 平和行進、宗教者平和会議、国連軍縮会議等。

陸井三郎資料 ラッセル法廷、ベトナム戦争犯罪調査団関連資料等。

図書寄贈	図書（個人） ……	20件・53冊
	図書（団体） ……	122件・241冊
	合計 ……	142件・294冊

図書購入 357件（高額図書・映像資料を含む）

2022年度 資料・図書などの寄贈者一覧

資料								
井手啓二	薄木智亮	梅林宏道	陸井三郎	佐藤昭子	高杉巴彦	土井清一	前田三千代	
図書								
蘆田雅子	新井勝紘	安斎育郎	井手啓二	伊藤昭	薄木智亮	及川淳一	佐藤渉	四国光
清水郁子	田中聡	鳥井真木	番匠健一	前原英彦	山根和代			

(敬称略・50音順)

2022年度は、以上の方々から資料や図書などをご寄贈いただきました。お名前を記し、感謝の意を表します。また、図書の寄贈者一覧につきましては、許可をいただいた方のみ、お名前を掲載させていただいています。

2022年度活動記録

常設展巡回展示

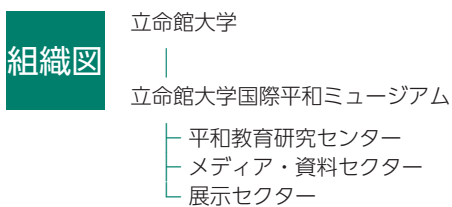
6/20 ~ 6/24	立命館大学スポーツ健康科学部/立命館大学びわこ・くさつキャンパス インテグレーション コア・ラルカディア 1階エントランスホール
6/28 ~ 7/14	立命館大学生命科学部/立命館大学びわこ・くさつキャンパス リンクススクエア 2階
12/9 ~ 12/23	立命館宇治中学校・高等学校/立命館宇治中学校 2階
1/10 ~ 1/29	立命館大学 OIC ライブラリー/立命館大学大阪いばらきキャンパス OIC 図書館 2階展示室

立命館土曜講座 (オンライン)

8/6	①「アジア・太平洋戦争と「徴用工」—帝国日本の労働力動員—
8/27	②「彼女たちの引揚げ—性暴力被害者の帰還と「混血児」排除をめぐる—
4/8	博物館の資料研究 (一五年戦争セクション) 第24回メディア資料研究会 「ミュージアム展示における個人情報・証言の価値—沖縄・南洋群島を事例に—」(オンライン)
4/22	京都国際比較人権セミナー オンラインセミナー テーマ: The adaptation of Scottish Courts to the pandemic: an innovative new chapter for the Justice system (平和教育研究センター共催/オンライン)
4/23	被爆の実相の継承と、平和のための博物館の国内・国際ネットワークの構築・強化 平和のための博物館市民ネットワーク・オンライン学習会 ・「非核の火、原発悔恨・伝言の碑およびヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館のこころ」 ・「原発事故の被災地・福島を訪ねて思うこと」(すべてオンライン)
5/9	京都国際比較人権セミナー 講演会 テーマ: 執行官業務と人権保障/立命館大学存心館 311号教室
5/20	平和教育研究センター企画「国際政治の視点から見るウクライナをめぐる問題についての Web 討論会」
5/26	附属校平和教育研究会 2022年度第1回附属校平和教育研究会(オンライン)
5/27	京都国際比較人権セミナー 予備国際ワークショップ テーマ: International Online-Workshop on E-Justice, ICT, Data Protection and Human Rights (オンライン)
6/1	京都国際比較人権セミナー 講演会 テーマ: ジョン・コルトレーンと平和人権/立命館大学創思館カンファレンスルーム
6/3	博物館の資料研究 (一五年戦争セクション) 第25回メディア資料研究会 「博物館展示におけるエゴ・ドキュメントの可能性」 ・報告: 「『普通の人のびと』が見た満洲事変—エゴ・ドキュメント研究の視座から」 ・報告: 「一五年戦争中国側の日記資料—その利点と欠点—」 ・報告: 「昭和期におけるアイヌの人々のエゴ・ドキュメントに関する調査報告—戦時下に焦点を当てて—」(すべてオンライン)
6/4	博物館の資料研究 (戦後社会セクション) 特別講演会「生きる場の思想」 ・講演: 「『共生』をめぐる」 ・講演: 「タントアナクネピリカ 今日が良い日だ」(ハイブリッド(対面: 立命館大学末川記念会館 1F 講義室))
6/6	京都国際比較人権セミナー 講演会 テーマ: 民事訴訟における基本的人権の保障/立命館大学存心館 311号教室
6/11	No war ウクライナに平和な日常を! Peace for Ukraina /立命館大学国際平和ミュージアム
6/18	京都国際比較人権セミナー Lecture: The primacy of EU law over national law テーマ: Rule of law contested - the Case of the Polish Constitutional Court /立命館大学存心館 311号教室 (平和教育研究センター共催)
6/24	平和博物館における戦争体験継承 第13回ワークショップ「植民地歴史博物館の設立過程と展示の特徴」(オンライン)
6/29	京都国際比較人権セミナー 比較司法制度研究会 テーマ: アメリカ連邦最高裁判所と人権保障/立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム (平和教育研究センター共催)
7/5	京都国際比較人権セミナー 比較司法制度研究会 テーマ: 弁護士と魅力について/立命館大学存心館 311号教室 (平和教育研究センター共催)
7/17	平和博物館における戦争体験継承 第14回ワークショップ「平和博物館の前身を再確認する: 平和のための京都の戦争展を中心に」(オンライン)
7/21 ~ 7/23	附属校平和教育研究会 沖縄平和研修旅行コース開発視察
7/25	博物館の資料研究 (一五年戦争セクション) 第26回メディア資料研究会 「日本帝国北辺の「波打ち際」—サハリン島におけるいくつもの強制された移動と不動」(オンライン)
7/26	附属校平和教育研究会 2022年度第2回附属校平和教育研究会/立命館大学洋館国際平和ミュージアムオフィス会議室
7/30	被爆の実相の継承と、平和のための博物館の国内・国際ネットワークの構築・強化 未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト オンライン夏休み親子向け企画 「『親子で知るヒロシマ1』~紙芝居「おばあちゃんの人形」~」(オンライン)
8/31 ~ 9/13	自衛隊基地の地域社会史 フィールドワーク: 北海道矢野別軍事演習場
10/15 ~ 12/31	「平和」をテーマとするマンガ・オンライン展覧会プロジェクト マンガ・パンデミック Web 展 2022
10/17	パンデミック下のオンライン戦争展の構築 アウシュヴィッツ平和博物館(福島県白河市)の小淵真理館長との相談
10/31	京都国際比較人権セミナー テーマ: デジタル化社会・異文化交流と人権/立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム
10/29 ~ 10/30	自衛隊基地の地域社会史 フィールドワーク: 大分県日出台軍事演習場
11/16	京都国際比較人権セミナー Online-Seminar on: Civil Enforcement Agency Latin America, The Court-Centered Enforcement Institutional Models: Still Efficient?(オンライン)
11/21	京都国際比較人権セミナー テーマ: ドイツにおけるコロナ対策と人権/立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム (平和教育研究センター共催)
11/30	京都国際比較人権セミナー テーマ: 予防司法としての公証人の役割と人権保障/立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム (平和教育研究センター共催)
12/10	沖縄復帰50周年記念 谷ノ上朋美 ひとり芝居「ゆんたくしましうね」/立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム

イベント
講演会
その他活動

12/14	京都国際比較人権セミナー テーマ：日独伊三国同盟は幻の軍事・経済同盟だったのか／立命館大学平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム
2/28	附属校平和教育研究会 2022年度第3回附属校平和教育研究会（オンライン）
3/3	平和博物館における戦争体験継承 第15回ワークショップ・博物館の資料研究（一五年戦争セクション） 第27回メディア資料研究会 「戦争体験のない世代が伝える戦争の記憶 2～自由学園の勤労動員学徒川田文子さんをめぐって～」 ・「川田文子さんと私たち ～知るために・忘れないために～」 ・「川田文子さんのこと」の周辺～自由学園における学徒動員、その記録と記憶」（すべてオンライン）
3/3	「平和」をテーマとするマンガ・オンライン展覧会 プロジェクト 研究プロジェクト構成メンバーとオブザーバーによる総括会議（ハイブリッド）
3/9	京都国際比較人権セミナー 比較司法制度研究会 テーマ：1. Position of the Judicial Officer in the Netherlands 2. The Dutch Preliminary Procedure Questions from lower courts to the Dutch Supreme Court / 立命館大学創思館カンファレンスルーム（平和教育研究センター共催）
3/12～14	京都国際比較人権セミナー International Workshop in Kyoto 2023 テーマ：E-Justice, Information Technology, and Human Rights/ 立命館大学創思館カンファレンスルーム
3/18	自衛隊基地の地域社会史 映画上映「風の記憶 湯布院一日出生台 1996～2022」上映会／ハチドリ舎（オンライン併用）
3/21	自衛隊基地の地域社会史 北海道における自衛隊基地周辺の地域社会の歴史と現状ワークショップ/ 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス D号館 D311号室
3/24～3/29	自衛隊基地の地域社会史 フィールドワーク：奄美大島陸上自衛隊駐屯地及び分屯地



運営体制
(2023年度)

館長	君島 東彦（立命館大学国際関係学部教授）
副館長	市井 吉興（立命館大学産業社会学部教授）
	細谷 亨（立命館大学経済学部准教授）
平和教育研究センター長	君島 東彦（立命館大学国際関係学部教授）
平和教育研究センター 副センター長	市井 吉興（立命館大学産業社会学部教授）
メディア・資料セクター長	勝村 誠（立命館大学政策科学部教授）
展示セクター長	鳥山 純子（立命館大学国際関係学部准教授）

遊心雑記

シャガの花が咲きました

安齋 育郎 (国際平和ミュージアム名誉館長)

4月から5月にかけて、庭に「シャガ」の花が咲きました。中国原産なのに、学名は「アイリス・ジャポニカ」。日本固有種でも日本原産種でもないのに間違っただけで学名に「ジャポニカ」の名がついた事例は他にもあるそうですが、一度決めるとなかなか変わりません。英語名の“fringed-iris”は、「房飾りの付いたアイリス」の意味です。

多くの植物細胞には2本ペアになった染色体がありますが、シャガは染色体が3本ある「三倍体」の植物で、種づくりがうまく行かず、種子植物なのにタネが出来ません。わが家の庭でもシュウカイドウのようにタネをつくって周囲にばらまき、どんどん増える植物もありますが、シャガは根を伸ばした先に出来る新芽が増えます。タネナシスイカやバナナなども三倍体で、タネがありません。

このようにシャガはちょっと変わった植物ですが、花の「顔立ち」は存在感十分ですね。目を吊り上げて、口を開けて吠えているライオンのようにも見えますし、白塗りをして舞台上に上がって見えを切っている歌舞伎役者のようにも見えます。

シャガの「花ことば」は、「反抗」と「友人が多い」です。「反抗」は、シャガの葉が剣のように鋭いことや、日陰で花を咲かせる様子から来ていると言われますが、一方の「友人が多い」は、種を作らずに仲間を増やしていくシャガの特徴に由来するとされています。ネット上には、「反抗的なのになぜか人を引き付ける強い魅力を持った人、時々いませんか？」という説明もありました。

植物は、個体として成長するだけでなく、必ず「次世代づくり」のノウハウを持っています。先に例示したシュウカイドウは、タネで増えるだけでなく、葉の付け根（葉腋）に形成されるムカゴ（珠芽）でも増えます。

福島に通って原発事故から10年目の2021年3月11日に花開かせた「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館」の次世代を、さあどうやって育もうかと思ひ悩む日々です。



独特の存在感のシャガの花 (撮影:安齋 育郎)

立命館大学国際平和ミュージアムだより

立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

第31巻 第1号 (通巻90号) 2023年6月29日発行
編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL : 075-465-8151 / FAX : 075-465-7899
<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>



今後、特別展のご案内、ミュージアムだより等、国際平和ミュージアムより送付をご希望されない場合、また、送付先の住所変更等ございましたら、氏名・団体名、送付先住所、電話番号、FAX番号をご記入の上、FAXにて国際平和ミュージアム (075-465-7899) へ送信下さい。